



大地震に備えて、日ごろからどんなことを心がけておけばいいの

家族会議と消火の備え

大地震に備えて、ふだんから非常用の、食料・水、防災用品などを、用意しておくことが大切です。このような物を、そろえておくほかに、ふだんから、心がけておかなければならないことが、いろいろとあります。

地震がいつ起こっても、家族全員があわてないで、行動できるように、月に1度くらい日を決めて、防災会議を開くようにします。地震が起こったときに、家族の一人ひとりの行動によって、地震の被害を小さくする心がけや、準備するものを決めておきます。また家族がばらばらなときは、どのようにして、連絡がとれるかを、決めておきます。

火をあつかう台所などは、じゅうぶんに点検して、安全を確認しておきます。また、火がすぐに消せるように、消火器を準備して、実際に使えるかどうか点検しておきます。ふろ場の水を捨てないで、消火用やトイレ用に役立ちます。

建物や家具などの点検

木造の建物は、建てられたときの状態に近い形で、保たれていれば、地震に対してもだいたい安全です。弱い地盤の上に建っているものや、建てられてから、長い年数がたっているものは、地震のときに危険なので、柱や土台などをよく点検して、補強しておきます。

タンスなどのたおれやすい家具は、しっかりと固定しておきます。地震でたおれてきた家具で亡くなったり、大けがをする人がいます。（監修・国司 真）

